

ただ、思いを持ち続けるというのはすごく大変で（笑）、時には心が折れそうになるし、私も日々折れている（笑）。そういうときは、ろう学校に行くようにしています。ろう学校に行くと、子どもたちに会うと、キャッキョ言いながらAntennaを使っている。結局、大事なものは、誰のために届けたいのかとか、どうしたらいいのか悩んでいるときに、その誰かが見えるということですね。私は、たぶん彼らから元気をもらっているし、それが研究のモチベーションにもなっているので、辛いときは、その誰かに会いに行く、ということをしてください、そうやって、思いの炎を絶やさずに頑張ってくださいというのがメッセージですね。

福原：ありがとうございます。今でも、ろう学校によく行かれるのですか。

本多：行っていますよ、もう、しょっちゅう行っています。ワークショップもしているし、はい。最近ではインドのろう学校とかにも行って、そこでAntennaを使ってもらったり、今月はヨーロッパのろう学校に行ったりしますね。

福原：海外の方の反応はいかがですか。

本多：Antennaというのはノンバーバルプロダクトなので、すごくシンプルに、音の大きさだけで振動するので、本当にリアクションは意外と一緒に、日本も、海外も、変わらない。なので、世界にも届けたいですね。

福原：日本だけでなく、世界でも、多くの方の笑顔が見られるというのは素晴らしいですね。ありがとうございます。

読者の方で、本多さんの活動に興味を持って参加したいという方がいらっしゃった場合、どのようにすればよろしいでしょうか。

本多：Antennaのサイトに問合せフォームがあるので、そこにメールをくだされば大丈夫です。

福原：きっと多くの方が興味を持つと思います。

本多：ぜひよろしくお願いします。

吉野：そろそろ予定の時間となりました。

本多さん、今日はお忙しいところ貴重なお話ありがとうございました。

本多：ありがとうございました。

吉野：福原さん、小林さんもお忙しいところありがとうございました。

参考文献

1) 公立はこだて未来大学 2011年プロジェクト学習ページ、https://www.fun.ac.jp/~maq/project_learning/mc2011/index.html